

犬小説・猫小説といえば・・・

『吾輩は猫である』 夏目漱石

中学教師の珍野苦沙弥の家に拾われ、自らを「吾輩」と称する猫が、自身の活動と、猫の視点から眺めた人間世界とを語っていきます。

「吾輩は猫である。名前はまだ無い。」という書き出しは有名。

『ジェニイ』 ポール・ギャリコ 新潮社

突然真っ白な猫になってしまったピーター少年は、大好きなばあやにロンドンの町へ放り出された。無情な人間たちに追われ、ボス猫にいじめられ...でも、やさしい雌猫ジェニイと出会い、2匹は恋と冒険の旅に出発する。

『夏への扉』 ロバート・A・ハインライン 早川書房

ぼくが飼っている猫のピートは、冬になると「夏への扉」を探しはじめる。家にたくさんあるドアのどれかが夏に通じていると信じているのだ。そしてこのぼくもまた、ピートと同じように「夏への扉」を探していた。



『ハチ公物語』 新藤兼人 小学館

先生は、きっと必ず帰ってくる。天国へ行ってしまった飼い主をいつまでも駅で待ち続ける犬のハチ。愛と友情と信頼の美しさを教えてくれる名作。

『フランダースの犬』 ヴィーダ 岩波書店

ベルギー・フランダース地方。ルーベンスにあこがれる絵の天分と情熱を持つ純粋な少年ネロと、ネロを見守る愛犬パトラッシュの物語。

『ハラスのいた日々』 中野孝次 文芸春秋

一匹の柴犬を“もうひとりの家族”として惜しみなく愛を注いだ感動の愛犬記。

猫・猫・猫・・・猫の本

『猫語の教科書』 ポール・ギャリコ 筑摩書房

ある編集者のもとへ届けられた不思議な原稿を解読することができた著者は驚いた。それはなんと猫による猫のための「快適な生活を確保するために人間をどうしつけるか」というマニュアルだった。

『猫踏んぢやった俳句』 村松友視 KADOKAWA

村松友視が<猫の手>を借りて俳句の旅へ。芭蕉・漱石・山頭火など、作家や俳人の猫句を独自の視点で読み解きつつ、両者の奇妙な関係に忍び寄る。

『旅猫リポート』 有川浩 文芸春秋

僕は諦めない。ハッピーエンドが待ってるんだ...。心優しい青年サトルとカギしっぽの猫ナナが見る美しい景色、出会う懐かしい人々。現代最強のストーリーテラーによる、心にしみるロードノベル。

『悲しみの底で猫が教えてくれた大切なこと』 瀧森古都 SBクリエイティブ

『猫が足りない』 沢村凜 双葉社

『マダム・キュリーと朝食を』 小林エリカ 集英社

『迎え猫』 輪渡颯介 講談社

『鯖猫長屋ふしぎ草紙』 田牧大和 PHP 研究所

『タマの猫又相談所』 天野頌子 ポプラ社

『連れ猫』 吉野万里子 新潮社

『雪猫』 大山淳子 講談社

『猫ダンジョン荒神』 笹野頼子 講談社

『さようなら、猫』 井上荒野 光文社

『猫ノ眼時計』 津原泰水 筑摩書房

『夜の国のクーパー』 伊坂幸太郎 東京創元社

『猫弁』 大山淳子 講談社

『猫と妻と暮らす 蘆野原偲郷』 小路幸也 徳間書店

『ポリス猫DCの事件簿』 若竹七海 光文社

『MUSIC ミュージック』 古川日出夫 新潮社

『マタタビ潔子の猫魂』 朱野帰子 メディア・ファクトリー

『星空の下ひなた。』 樋口直哉 光文社

『猫路地』 東雅夫 // 編 日本出版社

『猫背 振り向かニヤいで』 板東寛司 // 写真 人類文化社

『猫の神話』 池上正太 新紀元社

『かのこちゃんとマドレーヌ婦人』 万城目学 筑摩書房

『きりこについて』 西加奈子 角川書店

『モノレールねこ』 加納朋子 文芸春秋

『猫島ハウスの騒動』 若竹七海 光文社

『猫を抱いて象と泳ぐ』 小川洋子 文芸春秋

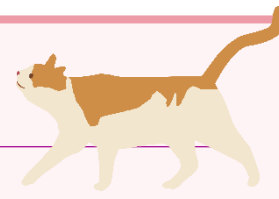
『黒猫の小夜曲 (セレナーデ)』 知念実希人 光文社

『黒猫』 ポー 集英社

『ねこ柄まにあ』 南幅俊輔 洋泉社

『煙突にハイヒール』 より「カムキャット・アドベンチャー」 小川一水 光文社

『般ニヤ心経』 加藤朝胤 リベラル社



あなたは犬派？猫派？

犬・猫ものがたり

羽生市立図書館 2015. 10 No.67

犬が好き、猫が好き、あるいは両方が好きという方もいらっしゃると思いますが、どちらもとても身近な動物です。

小説の中には、その身近な犬や猫が登場するものがたくさんあります。この機会に、どちらの良さも味わえ、あるいは考えさせられる本に出会ってみませんか？



『いのちの花』

～捨てられた犬と猫の魂を花に変えた私たちの物語～
向井愛実 WAVE出版

知っていますか？ 年間十萬頭以上の犬や猫が、人間の身勝手な理由で殺処分され、その犬や猫の骨は、ゴミとして扱われ捨てられていることを。そんな不幸な動物を救いたいと願い、立ち上がった女子高生たちの真実のお話。

犬・猫のことわざ

【犬は三日飼えば三年恩を忘れぬ】

三日飼ってもらった犬はその恩を三年も覚えているということ。

→人であればなおさら恩義を忘れてはならないという戒めのこと。

【猫を追うより皿を引け(猫を追うより魚をのけよ)】

猫を魚の前から追い払っても、戻ってきてまた狙う。猫を追ひ払うより、魚を別の場所に移動させる方が、簡単だし、確実である。

→問題が生じたときは、小手先のその場しのぎではなく、根本的原因是原因を取り除くべきであるということ。

【涙ほり対決！】

『白い犬とワルツを』テリー・ケイ 新潮社
57 年間連れ添った妻を失っても生き抜こうとするサム。そんな彼を心配する子供たち。孤独な人生の同伴者として老人の生を見守る彼にしか見えない白い犬はやがて……。 痛いほどにやさしい幻想的なお話。

！犬・猫対決！



『世界から猫が消えたなら』川村元気 マガジンハウス
郵便配達員として働く 30 歳の僕は余命わずかと宣告される。すると、悪魔が「この世界から何かを消す。その代わりにあなたは1 日だけ命を得る」という奇妙な取引を持ちかけてきた。僕と猫と陽気な悪魔の7 日間の物語。

【犬語・猫語対決！】

『犬語の教科書』矢島信一//監修 池田書店
鼻をなめたり、においをかいだり、見つめたり…。犬はいろんな方法で、飼い主にメッセージを送っています。そんなしぐさ=「犬語」を解説します。犬を迎え入れる準備、毎日の健康管理なども説明。



『猫語大事典』今泉忠明 監修 学研パブリッシング
猫のキモチのすべてがわかるパーフェクトガイド。顔の表情、姿勢、鳴き声といった「猫語」の読み取り方、シーン別不思議行動 Q&A、「猫語」を使った会話術などを収録。

【名言集対決！】

『人生はワンチャンス！』水野敬也 文響社
65 枚のかわいくてユーモラスな犬の写真と、忘れがちな「大切なこと」を教えてくれるフレーズを収録。裏には偉人のエピソードと名言も掲載。



『人生はニャンとかなる！』水野敬也 文響社
68 枚のかわいくてユーモラスな猫の写真と、忘れがちな「大切なこと」を教えてくれるフレーズを収録。裏には偉人のエピソードと名言も掲載。

【ふれあい対決！】

『犬と私の10の約束』川口 晴 文芸春秋
あかりが12歳の時、子犬のソックスがやってきた。亡くなった母はその子犬を見て「犬を飼う時には、犬と10の約束をして」と言った。はたして、あかりは約束を守れるのか…。犬と人の触れ合いを描いた感動作。



『猫鳴り』沼田まほかる 双葉社
ままならぬ人生の途に「奇跡」は訪れた。宿した命を喪った夫婦。闇にとらわれた少年。愛猫の最期を見守る老人。濃密な文体で、人間の心の襞に分け入ってゆく長編小説。

【人間と犬、人間と猫との対決！】

『今日はいぬの日』倉狩聡 KADOKAWA
飼い主一家に虐げられ、辛い日々を過ごす白犬のヒメは、流星群の夜、庭に落ちた不思議な石を見つける。その石をなめたヒメは、なんと人間の言葉を話せるように。ヒメは言葉巧みに、家族を操り始めるが……。



『スメラギの国』朱川湊人 文芸春秋
恋人との結婚を見据え、洒落た新築アパートに引っ越した志郎。新居の前には、猫が不思議と多く集まる空き地があったのだが、そこには隠された秘密が…。不幸な事故をきっかけに、猫と人間の凄絶な闘いがはじまる。

【短編勝負！】

『ワンダフルストーリー』

伊坂 幸犬郎著、犬崎 梢著、木下 半犬著、横関 犬著、貫井 ドッグ郎著 PHP 研究所
昔話でおなじみの犬もいれば、地名の由来になった犬もいる。悪者が連れてきた犬もいるし、人のために働く盲導犬や、やたらと見つめてくる犬も…。犬にちなんだペンネームに改名した人気作家達による、犬がテーマの5つの物語



『ブランケットキャッツ』

重松清 朝日新聞社
2泊3日、毛布付き。我が家にレンタル猫がやってきた。リストラされた父親が家族にささやかな夢として猫を借りてきた「我が家の夢のブランケット・キャット」など、いまを生きる孤独と救済を描いた、猫とひとがテーマの7つの物語。

【世界の民話対決！】

『世界の犬の民話』日本民話の会外国民話研究会編訳 三弥井書店
月食は犬が月をかんだから？ 冥界への案内役？ 犬は私たち人間に献身的で忠実な最良の友。愛すべき存在だけではない犬族の意外性と奥深さを描き出す神話・伝説・昔話を紹介する。



『世界の猫の民話』日本民話の会外国民話研究会編訳 三弥井書店
神様からの使者？ 9つの命を持ち9回生まれ変わる？ 知性と高い自尊心で人間を翻弄する、不思議で神秘的な猫の魅力が詰まった伝説・昔話を紹介する。

犬・犬・犬…犬の本



『凍える牙』乃南アサ 新潮社

深夜のファミリーレストランで突如、男の体から炎が噴き出した。その数日後、天王洲では無残に咬み殺された死体が発見される。二つの異常な事件につながりはあるのか。そこには得体の知れぬ力を秘めた野獣の影が…。

『ドッグテールズ』樋口明雄 光文社

愛犬の予期せぬ死ゆえ、ペットロスに打ちひしがれる夫婦。ふたりの心がすれ違わぬか、ある晩、月明かりの中で仔犬の鳴く声が聞こえ…。「グッドバイ」ほか、犬との出会いや絆をリリカルに描いた全5編を収録。

『パーフェクト・ブルー』宮部みゆき 新潮社

地元の高校球児のスター・諸岡克彦が、謎の死を遂げた。偶然その場に居合わせた弟の進也、連見探偵事務所の加代子、そして「俺」は、捜査を開始する…。元警察犬「マサ」の視点で描くミステリー。

『こころとろかすような』宮部みゆき 東京創元社

『私と、妻と、妻の犬』杉山隆男 新潮社

『愛犬物語』上下 ジェイムズ・ヘリオット 集英社

『瞳の犬』新藤冬樹 KADOKAWA

『さいごの毛布』近藤史恵 KADOKAWA

『忘れ村のイエンと深海の犬』冨崎 伸 新潮社

『犬から聞いた素敵な話』山口 花 東邦出版

『三つの名をもつ犬』近藤史恵 徳間書店

『親子三代、犬一匹』藤野千夜 朝日新聞出版

『空とセイとぼくと』久保寺健彦 幻冬舎

『犬身』松浦理英子 朝日新聞社

『星守る犬 (小説)』村上たかし//原作、原田マハ//著 双葉社

『ベルナのしっぽ』郡司ななえ イースト・プレス

『お楽しみはこれからだ!』真瀬もと 早川書房

『犬はどこだ』米澤穂信 東京創元社

『天使がいた三十日』新堂冬樹 講談社

『賢者はベンチで思索する』近藤史恵 文芸春秋

『館山寺心中殺人事件』木谷恭介 徳間書店

『犬吉』諸田玲子 文芸春秋

『カメラマンと犬』新井 満 集英社

『南総里見八犬伝』滝沢馬琴

『犬のきもち』ヴァレリー・シャフ PHP 研究所

『作家と犬』河出書房新社

『つめたいよに』江國香織 新潮社

『名犬ラッシー』E ナイト岩崎書店

『きみの犬です』令丈ヒロ子 理論社

『盲導犬クイールの一生』石黒謙吾 文芸春秋

『職員会議に出たクロ』藤岡改造 ワック

『ソウルメイト』馳星周 集英社

